

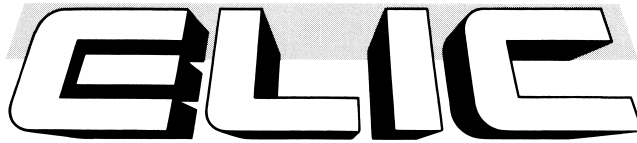
電機労働者懇談会

Electric Labor and Industry Correspondence

2021年2月10日

No 398

発行者：ELIC編集委員会谷口利男
142-0043 東京都品川区二葉2-20-8
電話(03)6421-5323 染野ビル2F
郵便振替00130-3-358078ELIC編集委員会



1部100円

初のリモートで電機の集い

52人が出席

電機労働者懇談会（電機懇）は電機・情報ユニオンとの共催で、1月23日(土)午後1時15分～4時50分にかけて都内「北多摩西教育会館」3F大会議室にて、「21春闘、電機の集い」を開催しました。この集いには、13企業32職場・5団体から52人（昨年59人）が参加しました。リモートは31人でした。



生活改善額の加重平均4万6787円

司会は電機懇事務局の九野・林さんがつとめ、電機懇今井節生代表は主催者挨拶で「21春闘では、生活実態で要求を、内部留保の還元を求めよう、コロナ便乗のリストラとジョブ型などの働き方改悪とたたかおう」と訴えました。

第1部は、電機懇谷口利男事務局長が、21春闘「要求アンケート」に寄せられた226枚（昨年302枚）の集計結果の特徴について「生活の苦しさを54%（昨年64%）の人が訴え、生活改善額で3万円以上を求める割合が81%になっており、加重平均で4万6787円（昨年5万2630円）を求めている」と強調しました。

続いて、電機懇「21春闘提言」（2Pに骨子掲載）は電機懇井坂正敏政策委員長がポイント報告を行い、電機・情報ユニオンの「21春闘方針」を森英一書記長が報告しました。討論は4人が行い、伊草さんが支援を訴えました。

格差拡大の実態と改善に向けて

第2部は、電機懇林事務局次長が2月に発刊する「賃金政策提言冊子」の特徴点をパワーポイント

で45分間報告しました。

報告を受けて、討論は7人が行い深められ、最初に國學院大名誉教授・経済学博士の小越洋之助さんから、労働力の対価や成果主義制度、職種別賃金、社会保障との関係など多岐に渡っての助言を頂きました。職場からは、女性の賃金が上がらない男女格差、既存の労組が提案するのは悪くなるので問題である、電機連合の最低賃金で一時金を年間5ヶ月計上は問題であると述べました。

閉会挨拶は、米田委員長が行い、労働運動では学習を重視する必要がある。大企業では経営を立て直す為に内部留保を取り崩している。

リストラは孫会社にまで及んでおり、ユニオンで闘う事が求められていると強調し、団結がんばろう三唱で閉めました。

今月号の紙面

- ① 21春闘「電機の集い」を開催
- ② 21春闘・電機懇提言のポイント
- ③ 21春闘で「経団連」包囲行動
- ④ 賃金政策提言冊子について
- ⑤ 日立労組本部要請。ルネサス格差
- ⑥ ラプラス「市議になって」石井さん
- ⑦ 電機情報ユニオン、青年コーナー
- ⑧ 21春闘統一ビラ配布。春闘集業界団体要請。集積回路。